

# 環境教育の研究から—地域住民が収入を得られる活動と土産物づくり

琉球大学提供  
作成日 2016年2月 9日  
更新日 2016年11月10日



<b>研究者氏名</b> たかそう とくしろ 高相 徳志郎	<b>所属機関</b> 琉球大学 熱帯生物圏研究センター	<b>関連キーワード(複数可)</b> イリオモテヤマネコ交通事故防止、ヤマネコメダル、景観改善、植栽、地被植物、理科教科書
<b>主な研究テーマ</b> ・ソテツの受粉・受精過程の研究 ・ウミクサ類、マングローブ植物の受粉機構の研究 ・理科教科書の記述是正		<b>主な採択課題</b> ・基盤研究(C)平成21～23年度(配分総額:4,680千円) 課題名「西表島における環境教育の推進」

## ① 科研費による研究成果

- ・自然環境の保全には地域住民が地域の自然環境について、より知識を深め、誇りを持つことが重要である。また、住民の生活基盤となる経済的な自立も必須である。このような考えの下に研究を展開した。また、自然環境に負担のかからない環境教育を取り込んだ滞在型観光を進展させるための研究と位置づけた。
- ・在来植物の利用を目的として、これまで研究が進んでいないウミクサ類の生活史の解明を行った。この研究成果、特にウミショウブの成果は、地域の理科教材、観光ガイドプログラムとして活用されている(ウェブページ、西表庵植物園、ウミショウブ: <http://iriomote.image.coocan.jp/research/EnhalusResearch/Enhalus.html>を参照)。
- ・海浜地被植物であるヒメキランソウとクロイワザサを用いての表土流失防止実験を行ったが、特にクロイワザサは、有望であることが分かった。
- ・酸性雨の原因物質が中国大陸起源であることを確認したが、他のアジア地域からの可能性も示唆した。酸性雨原因物質は年間を通して飛来することも明らかにできた。農業、畜産振興の援助になるように、土壌酸性度の調査をした。
- ・小学校理科教科書における野生生物、地名等の記述頻度を基に、記述が関東、関西に偏っていることを指摘し、より地域を反映した、例えば、北海道、東北、四国といった地域、で記述にした方が良いと提言した(西表庵植物園、小学校理科教科書: <http://iriomote.image.coocan.jp/textbooks/textbooks.html>を参照)。

## ② 当初予想していなかった意外な展開

- ・沖縄県の主産業の一つとして観光業があるが、いたるところに雑草(主に外来種)が繁茂していて景観を損ねている。この対策として、在来の地被植物を植える方法(植栽種の選定を含む)を提案し、実践をしている。実践の活動費は助成金によるが、予算額の一部を地域住民の作業代に充て、地域における在来種保護への意識作りにも寄与している。植栽規模を拡大して地域住民の多くが収入を得られるためには、植栽が国、県、町の環境保全事業の一部になる必要があり、この働きがけを進めている。
- ・ヤマネコの交通事故防止の基金集めとしてヤマネコ足跡メダルを考案したが、現在は西表島の共同作業所でつくられ、石垣空港等で販売され、人気商品となっている。ヤマネコマラソンの記念品でもある。
- ・NHK教育テレビ「バリバラ・南の島の作業所に行ってみた」で前記の植栽用の苗づくりとヤマネコメダルづくりが紹介された。2014年10月24日放送。

## ③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・沖縄県、竹富町、環境省が地被植物の植栽に理解を示し、近いうちに事業化され、これを基に、事業の拡大が計られそう。道路沿い、公園、緑地帯、空港等で、除草のために膨大な管理費が支出されているが、これを軽減できる。地被植物の植栽で雑草の侵入が抑えられるからである。また、植える植物は在来種であるため、環境保全にも役立つ。
- ・自然環境の保全には地域住民が自然環境に対して知識を深め、誇りを持つことが必須であるが、地域住民に収益があるようになると、これが進展しやすい。